

取手生活学校

取手生活学校は、昭和47年（1972年）に60名の会員で開校し、主婦の立場から身近な暮らしの問題点に取り組んできました。当時は、合成洗剤全盛期で、手荒れや皮膚障害を防ぐために粉石鹼の普及運動と固形石鹼作りを始めました。平成3年には、資源の有効活用やごみ削減を目指し牛乳パックの自主回収を始めました。現在は、毎月1回定例会を行って様々なテーマで勉強会を行っています。また、取手市消費生活展実行委員会の一員となり、毎年取手市消費生活展に参加して現在に至ります。

【活動内容】

・「地球温暖化やCO₂削減等の環境問題や食品ロスをなくそう」に取り組んでいます。主な活動として「レジ袋削減運動」を行い、今では当たり前となっているマイバッグ持参運動に早くから取り組んでいます。

・「もったいない運動」として、買い過ぎない、残さない、捨てないをテーマに地元産の食材（地産地消）を使って料理実習をしています。

・地域の子ども達には「資源を大切にしましょう！」と牛乳パックを使った小物作りを行っています。現在はコロナ禍により休止していますが、再開したいと思っています。

・視察研修をとおして、食品の安全や知識習得に努めています。

現在は、会員の高齢化等により以前のような活発なイベントはできませんが、会員一人一人が出来ることを地道にこつこつと暮らしに寄り添った活動に取り組んでいきたいと思えます。



令和6年2月